前回（第３回）委員会の後日提出意見

・前回（第３回委員会）委員会後に提出された意見の全文を記載しています。
（注）意見中のページ番号は，前回（第３回委員会）資料のものです。

令和４年度調布市民福祉ニーズ調査の結果について

資料１
ｐ２１　問１４　避難場所・経路・警戒区域について、知的障害、精神障害は「確認していない」が最も多く、身体障害も約３割の方が「確認していない」
ｐ２２　問１５　緊急時の避難情報の入手先は「わからない」が最も多い。
→早急に対策が必要なことだと思いました。

ｐ１８　参加しやすい地域活動は「わからない、関心がない」が最も多い。
→「わからない」と「関心がない」が同じ選択肢としてまとめられているので、実態がよくわからないのですが、障害当事者と一緒に地域づくりをしていきたいと福祉側は考えていても、関心があまり高くない当事者の方が多いのかもしれず、どうやってアプローチして一緒に取り組んでいくかが課題だと思いました。

関係機関ヒアリング等の結果について

ｐ５
●知的・発達障害の子がいて、かつ下に幼いきょうだいがいて手が離せず、通学できる日がまばらになっており、民生委員とＣＳＷが通学の支援を行っている
→親御さんの病気の場合も含め、送迎ができない、という理由で通学できないお子さんがいて、現在、制度的にサポートする方法がないとしたら、大きな問題だと思います。
その際の相談窓口がどこなのか、民生委員さんやＣＳＷがどこにつなげばいいのか、市として明確にしてほしいです。

●精神・発達のお子さんを抱える親は悩みを抱え・・・そのような方でも適切に届くものがあるとよい
→地域福祉コーディネーターがつかんでいる、お困りの親子のかたがいるとしたら、どこにつなげばよいか、また、どのようなツールで情報提供できるか、今後一層の工夫が必要だと思います。

ｐ８
●保育園と、障害児の保護者との間に入ってくれる人がいるとよいのではないか

●行政の支援の区切れ目でも毎回頼れる場所、トータルサポートが必要
→幼児から就学、18 歳以降、と、制度の区切れ目で支援が途切れることがないように、単に手渡す、引き継ぐのではなく、同じ人（または担当窓口）がその親子の担当として伴走してくれるような仕組みが必要だと思います。

幼児期は保育園が窓口、就学すると学校が窓口、その後は高校生年齢で一時切れてしまい、高校卒業後にまた、どこかの窓口につなぎなおす、というケースがたくさんあります。

親がそのたびに、一から説明しなおし、新たな方々と関係をつくりなおし、複数の支援機関がある場合には、親が走り回って情報を集める、という形になりやすいですが、時間的にも体力的にも余力のある保護者にしかできず、就学時や、高校生、１８歳以降で、ぶつぶつ切れてしまい、どこともつながれていないかたがいます。

支援機関どうしで引き継ぐのではなく、生涯にわたってその人への支援をつねに見守ってくれる窓口があって、ライフステージごとに他の支援機関とチームを作るかなめになるキーパーソンがそこにいてほしいです。

特に、医療的ケアなどがある場合は、何度もメインの支援機関がかわってしまうことの家族の負担は相当大きいと思います。

本当の意味での「切れ目ない支援」は、家族が孤軍奮闘しなくていいようなサポートであるべきはずで、常に、だれに相談したり、どこに助けを求めればよいかわかりやすい仕組みを工夫してほしいです。

ｐ９
●就学支援シートには学校に行ったときに困らないように課題をありのまま書くのだが、保護者はいいところをかいてくれないと受け取り、修正しなければならないことがある。

→保育園などの支援者のご苦労やご心配はよくわかりますが、新しい生徒、利用者さんに出会う時、そのお子さんの課題、困難な点、リスクなどばかりの書類を受け取ってしまうと、そのお子さんが本当はどのようなかたなのかつかみにくく、マイナスな印象に偏ったスタートになりがちです。

その子の得意分野や好きなことをまず知ると、その子がかわいらしく思え、そういうところを生かせる課題設定を思い浮かべたり、その子と仲良くなるために情報を生かせると感じますので、「いいところ」「すきなもの」についての情報がほしいと、支援者としていつも思っています。

なので、保護者が良いところも書いてほしい、という願いを持つのも自然だと思いますし、就学支援シートには、はじめから、「得意なこと好きなこと」、「苦手なこと嫌いなこと」、という項目を、それぞれ作ってほしいと思っています。
（そういう仕様の就学支援シートを作っている自治体もあります）

●発達センターにつなぐまでがいつも苦労するので、つないだら迅速に対応してほしい。
→親の会でも、せっかく苦労してつないだのに、三か月待ちになり、お母さまが面談をキャンセルしてしまった、という事例を聞きます。かなりの勇気をもって連絡してくる方にとって、初回面談は、やっぱりやめようかな、というグラグラした気持ちで申し込む場合もあるので、なるべく早く対応してあげてほしいです。

●療育が平日なので利用できなかった
→ひとり親家庭で、経済的な不安を抱えているかたは、やはり仕事を失うことが怖く、平日に休むことが難しいうえに、療育の効果や意味が最初はわかりにくいと思います。
事情がある場合には、土曜日に療育をしていただけるような仕組みも必要ではないかと思います。

ｐ１１
●地域の小学校でも、医療的ケアのお子さんが通学できるのではないか、装具や車いすの情報が十分でない場合があるのではないか
→そのように、府中けやきの森の先生がお考えなら、ぜひ、連携をとって、医療的ケアのかたや、肢体不自由のかたの支援チームに加わっていただきたいです。それがシステムとしてできるような仕組みを考えてほしいです。